



Aramasa &  
Nicolas Buffe

**No6 : Dix ans**  
**Noël 2021**



### 999 marches

Des ogres d'outre-mer ont assailli Akita.  
Pour les repousser, on leur lance un challenge:  
bâtir un escalier géant en une nuit.  
Mille marches ? C'est un jeu d'enfant pour un Oni !  
Plus qu'une pierre et le défi sera gagné.  
Tous les villageois ont perdu espoir, sauf un  
qui par un cocorico si bien imité,  
fait croire aux Namahage que le jour est là.  
Adieu ouvrage, trésors et plans de pillages.

### 「九百九十九の石段」

～男鹿半島に伝わる昔ばなし～

むかしむかしのお話です。不老不死の薬草を求めて、  
漢の武帝が五人の鬼とともに男鹿に  
やってきました。

この武帝のために働く鬼たちは、1年に1度だけ  
正月に自由を許されていました。

鬼たちは村里に下りては畑を荒らし、  
娘をさらったりと狼藉を働きます。

困った村人は武帝にこう頼みました。

「鬼たちが一晩で、五社堂まで千段の石段を築くことが  
出来れば、毎年一人ずつ娘を差し出します。

できなければ二度と鬼を村に降ろさないでください」

武帝はこれを受け入れて、

鬼たちに賭け事をさせることにしました。

いざ勝負が始まると、鬼たちは予想以上に手速く  
どんどん石段を積み上げてゆきます。

ところが、999 段目を積んだとき、「コケッコ」と  
一番鶏の鳴き声が……。

実は村人の一人が、とっさに機転を効かせて  
鶏の真似をしたのでした。

夜が明けたと勘違いした鬼たちは悔しがり、  
千年杉を引っこ抜いて逆さに刺して、  
山奥に帰っていきました。





# Profile



## ニコラ・ビュフ

現代美術家。1978年フランス・パリ生まれ。

パリ国立高等美術学校卒業、2007年以降東京に拠点を移す。  
2014年東京芸術大学博士課程取得。

1980～90年代のフランスで、アニメ、特撮、漫画、ビデオゲームなど、日本のポップカルチャーに親しむ。

「狂えるオルランド」「ポリフィルス狂恋夢」などのヨーロッパの古典文学から、「宇宙刑事ギャバン」「ゼルダの伝説」まで、幅広い学識を持ち、アートとサブカルチャーを融合させた独特の作風を確立。ファッションやラグジュアリー（エルメス、コム・デ・ギャルソン、ピエール・エルメ）、オペラのアートディレクション（シャトレ座、パリ）、文化施設とのコラボレーション（フランス国営セーヴル製陶所、リモージュ、オーピュッソン国際タペストリー都市）など、美術以外での活動も多い。2014年、原美術館にて個展「ポリフィエロの夢」を開催。

2018年、デザインを手がけたビル「ミュージアム・ガレージ」がマイアミ・デザイン地区でオープンした。

同年末東京ではギンザシックスの吹き抜け部大型インスタレーションを担当。2019年、フランス芸術文化勲章を受章。

## Nicolas Buffe

A French artist based in Tokyo since 2007, is the creator behind a multifaceted, interdisciplinary world combining erudite and popular culture. After graduating from les Beaux-Arts de Paris, he obtained a PhD from Tokyo University of the Arts in 2014. Born in 1978, he belongs to a generation naturally marked by Japanese pop culture in 1980~90 France, developing from childhood a passion for Anime, Tokusatsu, Japanese manga and Video games. From European classical literature such as "Orlando Furioso" and "Hypnerotomachia Poliphili" to "Space Sheriff Gavan" and "The Legend of Zelda", he uses a wide range of narrative and visual influences to establish his unique style that fuses art and subculture.

Nicolas Buffe has also ventured in various creative territories such as architecture, opera, fashion and luxury (Hermès, Comme des Garçons, Pierre Hermé), French historical manufactories of porcelain or tapestry (Sèvres, Aubusson, Limoges). He created on two occasions for the Théâtre du Châtelet in Paris awarded stage and costume designs for Haydn and Mozart operas. In 2014, he held a solo show "The Dream of Polifilo" at the Hara Museum of contemporary art Tokyo. Most recently, in 2018, he designed one of the five facades of the Museum Garage in Miami's Design District, while over the winter of 2018-2019, he set up a monumental installation inside Ginza Six in Tokyo. In 2019 he was appointed Chevalier de l'Ordre des Arts et des Lettres by the French Government.

写真：ImagenSubliminal (Miguel de Guzman + Rocio Romero)

「No.6」の十周年の機会に、6番目のコラボレーションとして本作品を手がけることができて、大変嬉しく思います。クリスマスは昔話に適する時期なので、今回、私は新政政造の所在地である秋田県の伝説から着想を得ることにしました。

「999の石段」というお話は、ナマハゲの儀式の起源を語る伝説としても知られています。

この民話を要約すると、<太陽の力に敗北した鬼>についてのお話とも理解できます。太陽に秘められた神秘的な力について、『Cosmos』(2015年)または『Journal hédoniste V』(2013年)の中で、ミシェル・オンフレが語るところによると、キリスト教の祝日である「クリスマス」は、そもそも光の再来を祭る古代異教の信仰を受け継いだものということです。またローマ帝国の祭典である「ソル・インウィクトゥス」(Sol invictus, “不敗の太陽”の意味)が冬至の時期に行われており、キリスト教がローマ帝国の国教となった時、それに合わせてイエスの誕生は冬至の時期に設定されたといえます。

さて本作にあらわれるキャラクターについてですが、「999の石段」の物語の主役ともいえるナマハゲ(鬼)の姿は<仮面をつけた毛むくじゃらの鬼>というものです。まるでナマハゲは、<自然世界(野生)>と<人間世界>をつなげる存在のように見えます。

私は歴史的に異なった文化間において何らかの関連性を見つけることを好むのですが、今回はフランスやイタリアのルネサンスの芸術分野に登場する「野生の男」(omo selvatico)というテーマとの関連性を考えてみました。アンドレ・ジャステルが著した『Masque, mascarade, mascarone』(1959年)によりますと、このキャラクターはヨーロッパの芸術的建築物や芝居・舞台にさかんに登場するのですが、全身が毛むくじゃらで牧神のマスクをしております。このスタイルは、中世時代の様々な逸話とルネサンス期のバレエや仮面舞踏会の意匠が入り混じてできたものだという事です。

私の作風にとって重要な一部である美術史におけるルネサンス期のグロテスク装飾(※)の作法においても説明しましょう。グロテスク装飾においては、自然における世界——動物界、植物界、鉱物界などを形態学的に混合して表現することが多いです。このため今回ボトルに登場するナマハゲも、「男像柱」(termes)や「アトラス」(Atlas)として表現することになりました。この鬼は千番目の石段を手で持っているデザインなのですが、それだけではありません。イタリアやフランスの建築装飾やマニエリスムの洞窟、またフォンテーヌブロー派の絵画によく見られるように、曲がりくねった足と「6」のデザインを組み合わせることで、<野生>と<金細工>という相反する要素を結びつけてもおります。

さて、瓶の蓋を開けると、物語の奇跡の転換が起こります。側面ではポップな星がクリスマスツリーの形を形成しており、ナマハゲの石段が建設された男鹿の森の姿を呼び起こさせます。また石段の数について、9と6の数字の視覚的なシンメトリーは、まるで光と闇の対照を想起させます。「怒り」と「怯え」で表現される2つのナマハゲの表情も、物語の構造に合わせて配置いたしました。そして雄鶏のデザインですが、これは20世紀半ばのアメリカのカートゥーン(アニメ)のスタイルのように描いてみました。

ちなみに雄鶏は、フランスのシンボルでもあることをご存知でしょうか。「雄鶏の叫びで鬼が逃げた」というのは、まさに皮肉な結末であり、本作品に軽妙なタッチを加える良い機会になったと思う次第です。

Nicolas Buffe  
ニコラ・ビュフ

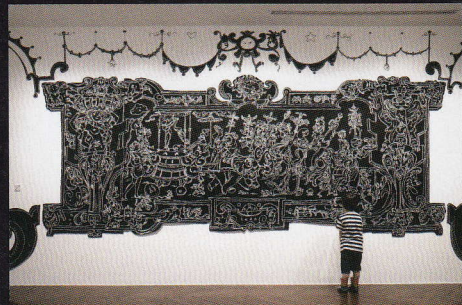


# Works



Nicolas Buffe : The Dream of Polifilo  
Hara Museum of Contemporary Art, Tokyo, 2014  
原美術館（東京）にての個展「ニコラ ビュフ：ポリフィーロの夢」、2014年

「The Gate of the Wolf's Mouth」  
入口のインスタレーション  
制作協力/Production: 株式会社十指作、(写真: 木奥恵三)  
「The Triumph of Leda」  
(写真: ニコラ・ビュフ)





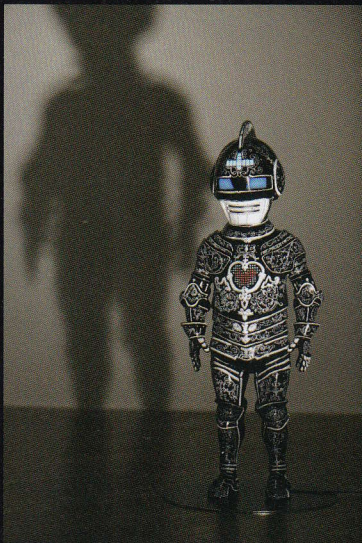
Nicolas Buffet : The Dream of Polifilo  
Hara Museum of Contemporary Art,  
Tokyo, 2014

原美術館（東京）にての個展「ニコラ  
ビュフ：ポリフィーロの夢」、2014年

「The Hero's Armor / Super Polifilo」  
「ヒーローの甲冑 / スーパーポリフ  
ィーロ」、2014年

制作協力 / Production: レインボー造形  
企画、Rainbow Zokei

(写真: 木奥恵三)



「Peau de licorne」(ユニコーンの皮)  
Tapestry, porcelain、タペストリー、陶器、2010年  
オービュッソン国際タペストリー都市、フランス；制作協力/  
Production: Cité de la Tapisserie in Aubusson,  
France, Atelier Patrick Guillot,  
CRAFT-Limoges; Collection of Cité  
de la Tapisserie d' Aubusson(写真: 木奥恵三)





「Shoot' em up」(縦スクロールシューティングゲーム)、ネックレス、2019年、セーヴル焼、オニキス、金、その他、エディション：Galerie MiniMasterpiece / Sèvres、(写真：Yann Delacour)



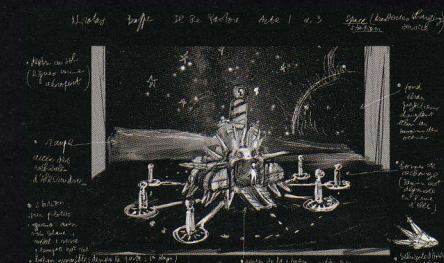
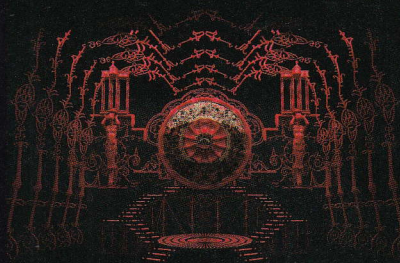
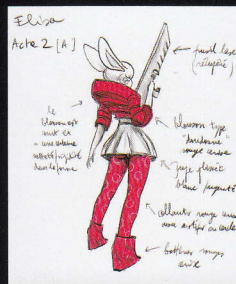
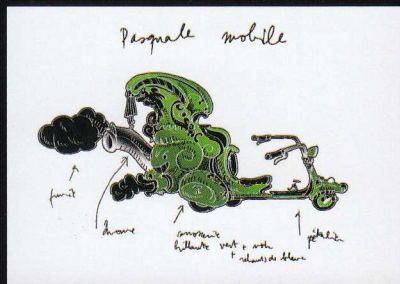
SÈVRES – CITÉ DE LA CÉRAMIQUE /  
MANUFACTURE NATIONALE DE SÈVRES -  
Cuisson au four à bois 2016 セーヴル陶芸都市 /  
セーヴルに国立製造所 / フランス国営セーヴル  
製陶所 - 2016年

「Polia」(Vase Grand Charpin); 「Méduse/Pégase」  
(Vase Mayodon), 「Poliphile endormi au pied  
d'un arbre/ Poliphile entre deux rêves」(Vase Ly)  
、「Le Dragon, ascension à la recherche de Polia」  
(Vase de Presle), 「Super Poliphile/Super Polifilo」  
(Vase Clermont), 「Cupidon」(Vase SR22);  
(写真：Sèvres, Cité de la céramique, Gérard Jonca)



Haydn: Orlando Paladino  
 オルランド・パラディーノ  
 Opera dramma eroicomico in 3 acts by Joseph Haydn - 3 幕のドラマ・エロイコミーコオペラ、フランツ・ヨーゼフ・ハイドン；指揮者：Jean-Christophe Spinosi, Ensemble Matheus；シャトレ座, パリ, 2012年  
 THÉÂTRE DU CHÂTELET, PARIS, 2012

Mozart : Il Re Pastore  
 The Shepherd King, Opera in two acts by Wolfgang Amadeus Mozart  
 羊飼いの王様, 2幕のオペラ、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト；指揮者：Jean-Christophe Spinosi, Ensemble Matheus；シャトレ座, パリ, 2015年  
 THÉÂTRE DU CHÂTELET, PARIS, 2015







「提灯ロケット」

(Paper lantern rocket)

2017年、4,65 x 3 x 1,8 m

制作協力 / Production: レインボー造形企画、

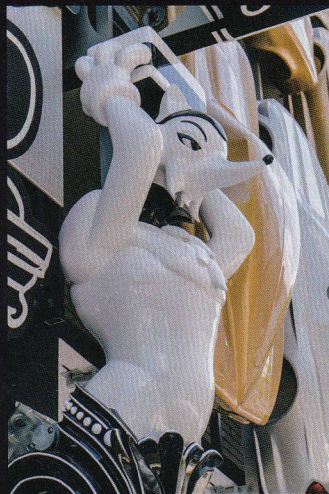
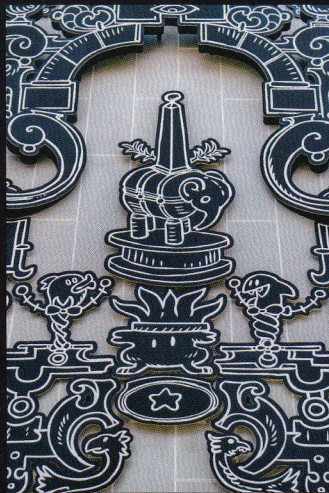
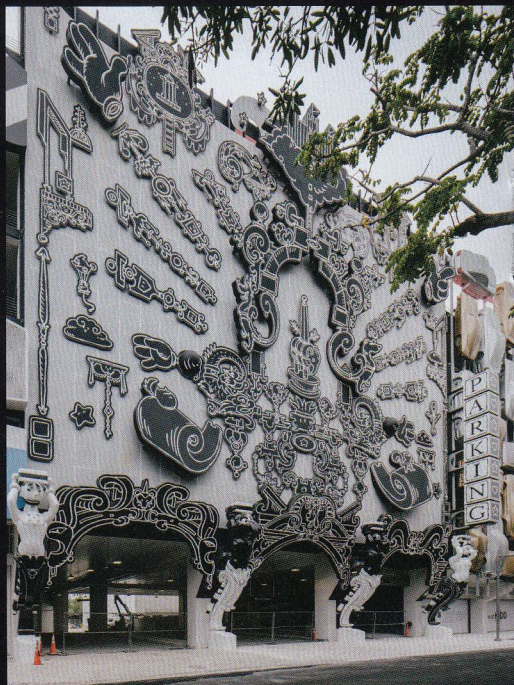
Rainbow Zoeki, K11 Hong-Kong

六本木アートナイト、六本木ヒルズ、

Roppongi Art Night, Tokyo, 2018年

(写真: ニコラ・ビュフ)





「Museum Garage」

Miami Design District

マイアミデザイン地区、2018年

WORKac | J. Mayer H. | Nicolas Buffe | Clavel  
Arquitectos | K/R

Project curated by Terence Riley

(写真: ImagenSubliminal

(Miguel de Guzman + Rocio Romero)





「光るぞう」(「冬の王国」と「夏の王国」の物語)

Fantastic Gift, Monumental installation at  
GINZA SIX, Tokyo

ギンザシックス、東京、2018-2019年

(制作協力 / Production: ブランクス、Pranks inc.)

(写真: ギンザシックス)



## No.6: Dix ans - Noël 2021 のリリースに寄せて

新政酒造株式会社  
代表取締役 佐藤祐輔

このたびは「No.6」十周年記念酒企画の最後のひとつ「No.6 : Dix ans - Noël 2021 (デザイン・ノエル)」をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

「No.6」は、当蔵発祥である「6号酵母」の味わいをダイレクトに表現するために造られた、新政酒造唯一の「生酒」ブランドです。2011年の発売から早くも十年が経ちましたが、今やたくさんの人々に愛される銘柄に成長いたしました。皆様とともに歩んだこの年月を祝うため、本年度、6名のアーティストとのコラボレーション企画が行われております。

さて最終の第六弾となる本作は「No.6 : Dix ans - Noël 2021 (デザイン・ノエル)」。国産のミズナラ樽にて熟成させた生酒を、さらに瓶内での二次発酵によってスパークリング化したものであり、毎年12月にリリースされる「X-mas Type」をさらに進化させたものとなっております。

現代美術家であるニコラ・ビュフ氏の手によるデザインも、たいへん見所が多いものとなっております。黒と赤を基調としたそのゴシックなデザインは、ヨーロッパ古典美術と日本のポップカルチャーを融合させることで成り立っており、本作においてもその独特な世界観は遺憾無く発揮されております。

なおニコラ・ビュフ氏のアートワークは、なにかしらのストーリーを基にして構成されるのですが、今回は「999の階段」という、秋田県男鹿半島に伝わるナマハゲが登場する民話をもとに制作されました。この民話は、<狼藉の限りを尽くす鬼を村人が協力して追い払う>という内容なのですが、未だ世界を覆いつくすパンデミックのただなかで、この民話がテーマに選ばれたということは実に興味深いことです。

古来から鬼は「疫病」を象徴するものであります。例えば「節分」の行事は、流行り病を追い払う儀式の名残りと言われているようすし、最近では鬼退治を題材としたアニメーションが空前のヒットを果たしたことも記憶に新しいでしょう。

そのような意味で、この「No.6 : Dix ans - Noël 2021 (デザイン・ノエル)」は、コロナ禍における疫病退治の願いを表現した芸術作品とも言えるのです。皆様におかれましては、本作品を通してぜひ「鬼退治」に参加していただきたいと思います。

そして2022年こそ、世界に平穏が戻ってきますように。



## 新政の酒造り

1852年、江戸時代末期に創業した新政酒造は、6号酵母の発祥蔵でもあります。

このため新政酒造では、すべてのお酒を、

この90年前に発見された、

現在最古の市販清酒酵母である

「6号酵母」で造っております。

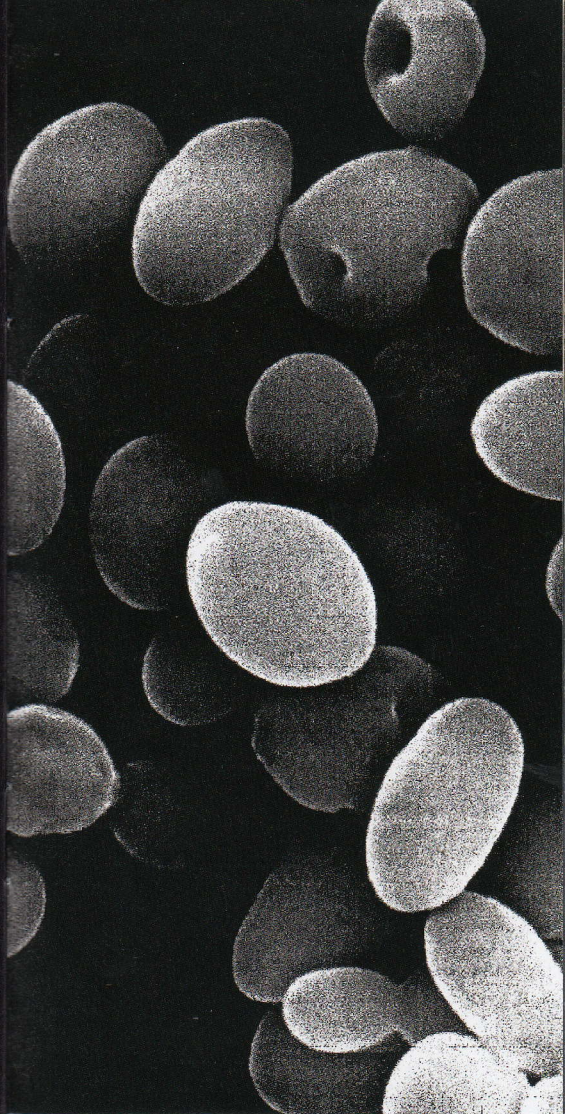






Photo by Takeaki Matsuda

新政酒造は、秋田市外れの「つれしな鵜養」にて、自社圃場を運営しております。この地では 23 町もの無肥料無農薬田が広がっており、酒米が育てられています。

村の上流には鬱蒼と生い茂る、杉、ミズナラ、ブナの森林が広がるのみ。透明感あふれる豊富な水が、堰をって村に流れ込み、この地で育てられる稲の生命を育てています。



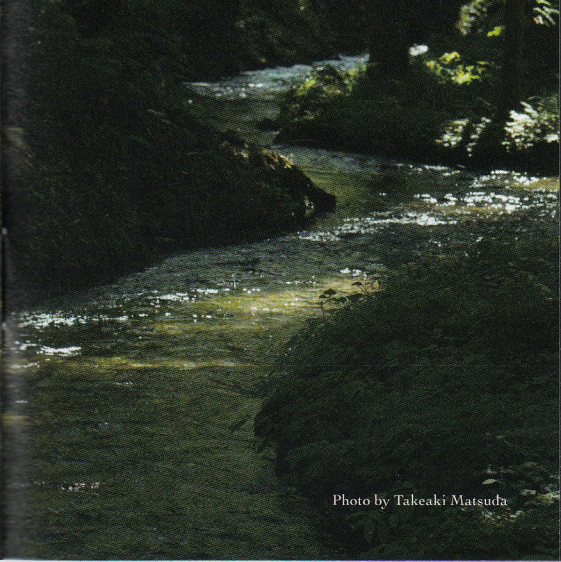






Photo by Kiyohide Hori

新政酒造は無農薬酒米の栽培の他にもさまざまな取り組みを行なっています。純米造りのみ、また江戸時代に完成した技法である「生酛」のみでの醸造に徹するほか、45本もの木桶を保有しており、日本古来からの伝統製法を啓蒙しています。

新政酒造は、日本の伝統発酵文化の保護と継承のため、酒造りをしています。





## No.6:Dix ans - Noël 2021

品 目：日本酒（純米酒）

内 容 量：720ml

アルコール分：11度

原材料名：米（秋田県産）、米麴（秋田県産米）

精米歩合：55%（麴米、掛米ともに 55%）

原料米名：秋田酒こまち 100% 使用  
(2020年 秋田市鶴巻地区 収穫)

使用酵母：きょうかい6号

貯 蔵：ミズナラ樽

醸造年度：令和3酒造年度（2021-2022）

杜 氏 名：植松誠人

製 造 者：新政酒造株式会社 秋田市大町六丁目2-35

製造年月：2021.12（出荷年月）

〈当蔵のお酒の特徴〉当蔵は素材の魅力を最大限に表現するため、生酛造り・純米造りに徹しております。使用しても表示する義務がない以下の添加物 -----  
酸類（醸造用乳酸など）・無機塩類（硝酸カリウムなど）・  
酵素剤（アミラーゼなど）を用いることはありません。



## 製品につきまして

当蔵は、手間暇を要する伝統製法により醸造しております。また、完成から出荷に至るまで、全商品を冷蔵庫で管理するなどあらゆる点で品質に最大限の注意を払っております。このため、一酒造期間中に醸造できる量が限られております。製品によっては、欠品が起こるなどのご迷惑をおかけする場合がありますことを深くお詫び申し上げます。

## ご購入に関しまして

当蔵は、お酒の直接の販売はいたしておりません。  
ご購入の際は、お近くの特約酒販店をご紹介しますので TEL: 018-823-6407 ( 新政酒造 ) までお問い合わせください。

## 会社概要

新政酒造株式会社

〒010-0921 秋田県秋田市大町6丁目2番35号

事業内容 日本酒の醸造および販売

創業 嘉永五年 (1852年)

TEL 018-823-6407

FAX 018-864-4407

MAIL info@aramasa.jp

## R02BY (2020-2021) スタッフ

取締役会長  
佐藤卯兵衛

代表取締役社長  
佐藤祐輔

原料部門長・執行役員  
古閑弘

醸造責任者  
植松誠人

佐々木公太／押木和人／石川公久／黒澤亮平／藤井厚介  
菊地玄太／加藤誠士／日尾守／安藤周輝／大高尚人  
小熊仁美／堀等史／石郷岡和彦／高橋晴海／宮沢慧  
福本竜次／照井実／阿部美奈子／渡辺進／兼子佳  
植田一郎／浅野佑太